

発 生 予 察 情 報	
特殊報第2号	平成13年12月13日 秋田県病害虫防除所

リンゴ赤衣病（あかごろもびょう）の初確認について

平成13年11月、秋田県南部のリンゴ園で、‘千秋’（マルバ台）と‘北斗’（‘スターキング・デリシヤス’に高接ぎ）各1樹の側枝の中ほどに、淡紅色、クモの巣状菌糸が覆っている特異な病徴を呈する枝枯れを採集した。病徴や分離菌株の生育特性などから本病はリンゴ赤衣病であると診断した。本病原菌はリンゴのほか多くの植物に枝枯れを起こす多犯性の糸状菌である。本病のリンゴにおける発生は長野県、岐阜県、群馬県、愛知県で確認されている。しかし、本県をはじめ、北日本の寒冷地での発生確認は今回が初めてである。

1. 病害虫名 赤衣病 *Erythricium salmonicolor* Berkeley et Broome

2. 作物 リンゴ

3. 病徴および生態

淡紅色の菌糸塊が皮目状に多数突出した病斑が見られ、その後樹皮表面をクモの巣状に白色菌糸が覆ったようになり、これが密生して薄い膜状になり拡大する。病斑が進展すると表皮から木質部まで腐敗させ、枝枯れや樹体の枯死に至る。

腐らん病や胴枯病と異にする特徴として、

1) 本病は病斑部の淡紅色の菌糸塊が突出すること

2) クモの巣状の菌糸が樹皮表面を覆うような状態になること

があげられる。特に降雨や多湿時には白色あるいは淡い紅色の菌そうが見やすい。

感染はせん定跡や折損部などの傷害部が多いが、皮目部からも感染する。長野県での試験結果によると担子胞子の飛散は4月から9月の期間に多く、リンゴ樹での主要な感染期間は5月下旬頃から8月である。

4. 主な寄主植物

本病原菌は熱帯、亜熱帯気候にかけて広く分布しており、カンキツ類やコーヒー、茶、ゴムの樹などでは主要病害とされ、200種以上の木本植物に寄生するという報告がある。また、国内では従来温州ミカン、ポンカン、タンカン、ビワ、イチジクなどで被害が報告されているが、長野県ではリンゴの他、アンズ、カキ、ナシ、カリンでの発生が確認されている。

5. 防除対策

本病に登録を有する殺菌剤には、ポリオキシシンA L水和剤、バッチレートがある。また、次の殺菌剤散布で同時に防除される。

休眠期散布：石灰硫黄合剤10倍、またはベフラン液剤1,000倍

生育期防除：ポリオキシシンA L水和剤1,000倍、またはスパットサイド水和剤800倍、またはバシタック水和剤1,000倍

6. 参考資料



写真-1 ほ場での発病状況



写真-2 淡紅色の菌糸塊



写真-3 赤衣病の標徴

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所	018 (860) 3420
秋田県果樹試験場	0182 (25) 4224
〃 鹿角分場	0186 (25) 3231
〃 天王分場	018 (878) 2251
掲載HP	http://www.pref.akita.jp/nosaneng/bojo/index.html